

沖縄タイムス 時の人「聞く」に徹し解決助ける

時の人

「聞く」に徹し解決助ける

福島原発前所長とビデオ対談を実現

荻原秀樹さん

東京電力福島第1原発の事故の陣頭指揮を執った吉田昌郎前所長とのビデオ対談を実現させた。「事故現場に飛び込んで行ってくれた部下は地獄の中の菩薩（菩薩）のようで、後ろ姿に手を合わせて感謝した」などと事故直後の心情を明かす吉田氏の言葉は生々しい。

吉田氏とは昨年10月に面会し、廃炉に向けた原発幹部職員のメンタルケアを無償で引き受けるなど、親交を深めてきた。幹部職員との面談などで、吉田氏が昨年12月に食道がんのために退任した後も部下からの信頼がとても厚いことを知った。

「事故処理に当たるスタッフのモチベーションを上げないと福島復興も日本の未来もない。吉田氏に肉声でスタッフの頑張りを語ってもらおうのが重要と企画しました」

徹底的に相手の話の話を傾け、相手が自ら課題を解決していくのを待つ「わもん（話聞）」という独自のカウンセリング手法に、福島第1原発の高橋毅現所長も「（幹部たちは）人に言えないことを吐き出すことができ助かっている」と感謝する。

若いころから、自分が生まれた理由を考え続けてきた。政治家を目指し、国政選挙候補者を熱心に支援したこともある。物品販売業なども営みながら、自分が人を育成する技にたけていると知り、人材コンサルタントになった。

「被災者も十分に胸の内を吐露する場所が必要。そのお手伝いもしたい」。徳島県出身。49歳。ビデオ映像（約30分）は福島市で来月11日に開くシンポジウムで上映する。

出典：2012年7月31日付 沖縄タイムス 記事

